新たな医療情報連携基盤の構築に向けた基本構想案の検討のたたき台について

資料4

〇今後、生産年齢人口の減少局面を迎え**医療人材の確保が課題**となる中、情報連携を強化する**医療DXに加え、業務の効率化や患者満足度向上に資する医療AXの推進が重要**

〇ライフコース全体を支え、誰もが迅速で質の高い医療が受けられる**「つながる医療」を実現**

〇将来的には集まったビッグデータを利活用し、**予防や健康、医療政策等へ反映し健康寿命を延伸**

項目			タイトル	記載（案）
大項目	中項目	小項目		
1			本書の目的	・目的や位置づけ
2			新たな医療情報連携基盤の構築の背景	・医療従事者確保の困難さ ・高齢化の進展や独居高齢者の多さ ・首都直下地震等の災害や新興感染症のリスク
3			医療情報連携を取り巻く状況	－
	(1)		医療情報連携の現状	－
		ア	医療機関同士の情報連携	・都における電カル導入状況（導入率、導入状況、導入しない理由） ・医療情報連携状況（電子カルテ規格、連携実績、連携が進まない理由）
		イ	患者と医療機関の情報連携	・現在の取組状況 ・患者が不安、不満に感じること、医療DXに期待する取組
		ウ	医療機関と行政の情報連携	・PMHの導入状況（導入率、接続区市町村数）
		エ	医療機関と研究機関等との情報連携	・次世代医療基盤法を活用した取組状況

新たな医療情報連携基盤の構築に向けた基本構想案の検討のたたき台について

項目			タイトル	記載（案）
大項目	中項目	小項目		
	(2)		国の状況	・全国医療情報プラットフォーム ・次世代医療基盤法による医療情報の活用の仕組み
	(3)		他国の状況	・フィンランド、韓国、イギリス、シンガポール
	(4)		他医療機関等の状況	・群馬大学医学部附属病院、恵寿総合病院、綜友会　等 ・ちょうかいネット、HMネット、あじさいネット
4			新たな医療情報連携基盤に求める役割と機能	－
	(1)		新たな医療情報連携基盤に求める役割	・誰もが迅速で質の高い医療が受けられる「つながる医療」の実現 ・医療DXや医療AXによる更なる医療従事者の負担軽減 ・ライフコース全体（健診、受診、入院、介護、救急など）を支える ・早期発見、重症化予防で健康寿命を延伸 ・患者の利便性向上 ・二次利用（AIやビッグデータを活用した創薬や新たな治療法の開発など）
	(2)		名称（案）	・東京メディカルデータプラットフォーム（仮称）

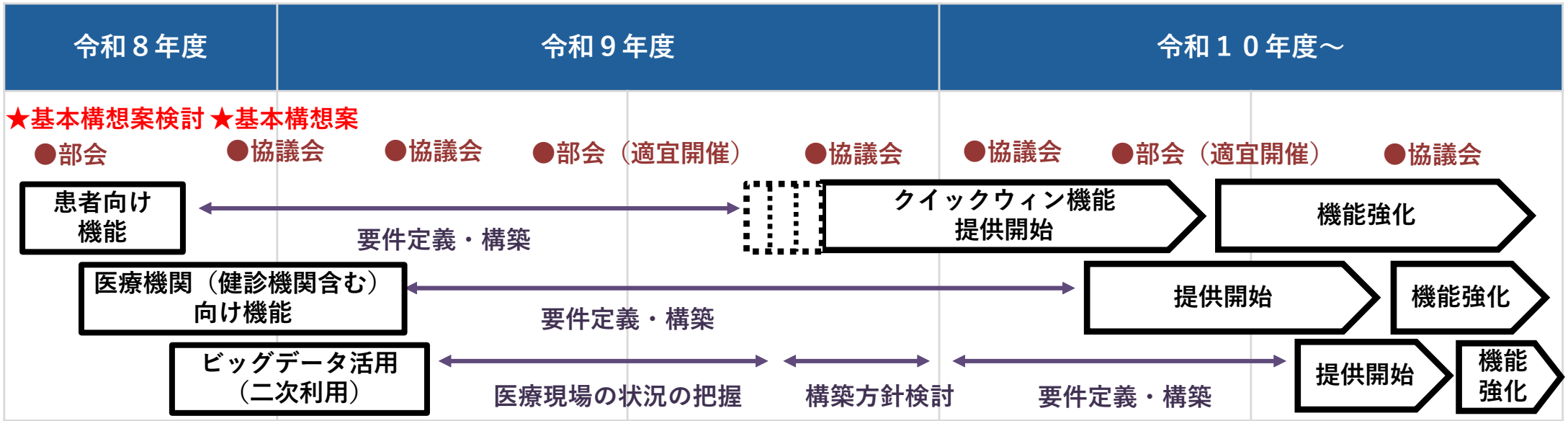
新たな医療情報連携基盤の構築に向けた基本構想案の検討のたたき台について

項目			タイトル	記載（案）
大項目	中項目	小項目		
	(3)		構築の考え方	・行政（都）が取り組む理由、意義 ・アジャイル方式で順次構築 ✓当事者価値を高める機能から構築（クイックウィン） ✓画像共有はアップロード／ダウンロードから開始し、健診機関と連携 ✓医療機関の電子カルテや文書管理システム等と自動連携 ✓5疾病6事業や介護、学校健診などの各事業と段階的に接続し活用 ✓将来的にはビッグデータとして活用し健康寿命を延伸 ・ＡＸの推進 ✓カルテ情報を要約し患者や医療機関間で共有 ✓ＡＩ機能を有する電子カルテ等との接続・活用
	(4)		求める機能	－
		ア	医療機関同士の情報連携	・情報共有を行う医療情報（画像、その他。国との違い） ・電子カルテの規格に関わらず全ての医療機関が接続 ・健診機関とも情報連携 ・電子カルテ情報共有サービスと一体的なUI／UX ・医療情報の保管、連携方式
		イ	患者と医療機関の情報連携	・情報共有を行う医療情報（画像、その他。国との違い） ・当事者価値を高める機能（クイックウィン） ・患者同意取得の仕組み

新たな医療情報連携基盤の構築に向けた基本構想案の検討のたたき台について

項目			タイトル	記載（案）
大項目	中項目	小項目		
		ウ	医療機関と介護や行政等の情報連携	・全国医療情報プラットフォームも活用した医療・介護の情報連携 ・PMHとの連携 ・学校保健との連携
		エ	医療機関と企業、研究機関等との情報連携	・医療情報の利活用を推進するため医療機関への取組状況調査を実施（令和9年度調査予定）
	(5)		セキュリティ対策	・アクセス制限、認証、監査ログ
	(6)		運営体制	・医療機関やベンダーとの接続調整等の運営・管理体制
5			スケジュール	・スケジュール

〇今後のスケジュール（案）



※協議会、部会の意見は要件定義等に反映